

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132番地1		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村報告日	平成25年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成25年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、次の事を大切に日々送っています。  
 穏やかな老後を過ごして頂くために、利用者に寄り添い、ゆっくりした個々のペースに合わせ、個人を尊重した支援介護を目指しています。  
 毎日の適度な運動、食事、睡眠をとることによって、ADLの低下を緩和し、快適な生活を送っていただくことを重要視しています。  
 四季折々の季節を感じることで暮らしに変化や刺激をもたらし、日々の生活を楽しく頂けるよう季節の野菜や花を育て、ホーム内には飾り付けを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大自然や四季の移り変わりを肌で感じることができるホームは床暖房完備で各部屋はなどウッドデッキが設置され快適で安心な生活を送ることができる。産休などを利用し、子育てしながらも働きやすい職場となっている。集団体操や手引き歩行での移動を行い、身体機能維持・低下防止に努めている。年々レベルが低下している入居者には家族の協力を得ながら毎週外出・外食を楽しんでもらっている。会議では全職員に意見・思いを発表する時間が与えられており、それぞれが目標を持ちながら、入居者に寄り添いながら一人ひとりに合わせたケアが行われている。今後は情報共有のための記録の整備と家族の協力を得ながら入居者のペースに合わせたケアを継続されることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個人を尊重、そのために、選択の機会と自由を提供する。	「あそ和楽の目指す使命」として目指す理念を事務所等に掲示している。その人らしい暮らし・自立した人生・選択の機会と自由・個人の尊重と保護などが盛り込まれている。	理念はホームの柱となるものです。職員間で再考したり、新人職員への説明や会議等で振り返りを持つ取り組みも期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症対応型介護施設として、地域に認知されてきた。福祉体験学習として、地域の中高生の受け入れや、湧水トンネルの七夕・クリスマスの参加など、四季折々の行事を通して、地域に関わりをもってきている。	恒例になっている湧水トンネルの七夕とクリスマスの飾りつけで地域の行事に参加したり、中・高校生の体験学習の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の、職場体験学習・福祉体験学習などを通じ認知症への理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議が定着し、事業者の取り組みを報告。各方面からの意見、評価に対し現在のサービスについて、反省し話し合い、今後のサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに区長・民生委員・役場の福祉課職員・保健師・家族会代表等が出席して開催されている。ホームの活動報告を行い意見等を求めるようにしている。「冬に向けての体調管理」など、その時期に合わせたミニ講座も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の住民福祉課や社協等の福祉関係との連携は共に良好で、協力関係も出来ている。また、緊急時対応ネットワークのメンバーとして、緊急対応品備蓄の協力を行っている。	日頃より役場福祉課職員とは情報交換や相談を行い連携を図っている。緊急時対応ネットワークのメンバーとして町からの委託を受け倉庫に備蓄を保存している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の理念である、「個人の尊重と保護」の精神で、全体会議を通じて、全員が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修に出席した職員が全体会議で発表し、新人職員から質問がある場合には答えるようにしている。気づいたことがある時は注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修等で、具体的な高齢者虐待の内容を把握することで、職員一人ひとりが注意し、虐待防止に努めている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉制度については、今後少しづつ取り入れていかなければならない課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約については、運営者自らが、文書の掲示・説明を行い、利用者や家族が十分に納得した上で、契約・解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の不安や不満、要望、意見等は、拜聴後早急に話し合い、検討し代表者自らが回答説明を行い、結果を全職員に報告、運営に反映している。	家族の面会時に意見や要望を聞くように心がけている。クレームがある場合には代表者が回答説明を行い、全体会議でも職員に内容を伝え改善するようにしている。	職員が異動した時など家族へお知らせするなど家族の不安を軽減する取り組みも期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全員参加型の職員会議において、職員一人一人が、意見・要望・気づき等を発表する場を設けている。検討した内容は、施設長、ホーム長で話し合い改善に努めている。	毎月の全体会議で全職員2～3分のスピーチを行い、意見や要望・悩み等を発表するようにしている。その場で話し合ったり、解決できない事は次回までに施設長・ホーム長で検討し、運営に反映するよう努めている。	出席できなかった職員への配慮はあるようですが、会議録としての書類の整備も期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の悩みなど、個別に話す機会を設け代表者は、精神的・身体的状況を把握し、各自が向上心をもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上を目指し、個人に合わせた育成を行っています。定期的に、社外の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、講習会には運営者、管理者、職員とテーマに合わせて参加、内容を職員会議や回覧等で全員に徹底、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設になるべく早く馴染まれるように全職員が、積極的に声掛けを行い、居心地のよい環境を提供できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時は、家族の悩み、不安な気持ちを聞き入れ、何でも相談ができる、安心して預けられる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が、今何を求めているのか、家族と本人からだけではなく、職員自身の目で見確かめ、その人らしいサービスが選択できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「世話になってすまんー」「世話にならんように自分なりに頑張りよる」・いろいろな意味が込められている言葉がある中で、家族として関わり、接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況の説明を、来苑時や電話で報告し今の状態を、家族が知ること、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、生活してきた環境での年中行事等、分かる限り伝えるようにしている。	行きつけの美容室を利用したり、以前住んでいた地区の方が遊びに来られることもある。家族の協力により、毎週帰宅して食事をしたり、お盆にも数名外泊されるなど馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・相性・なじみの関係などを知った上で、触れ合えるような雰囲気作りを行っている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時に、理由しだいでは、元気になるれば戻れるという安心感、苑外で会えば、気軽に声掛けて、相談や支援ができるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の望む暮らしに、出来るだけ近づけるよう、関わりを増やし、不満や希望が聞けるよう心がけている。	日常の会話の中から入居者の希望や意向・思い等を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の全体像を把握する為、職歴、生活歴、人間関係等細かな情報を、本人・家族から拝聴する。その後の、サービス提供に役立てていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で、小さな気づきを大事にして、情報を事業所全体で共有して、日々のケアに役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、安心して快適な生活が維持できるよう、本人・家族・医療機関と話し合い、助言等を受けながら、介護計画を作成、月1回モニタリングで話し合い、評価し新たな介護計画に生かしている。	担当職員、入居者や家族の意向をもとにホーム長が中心となり職員の意見を加味しプランを作成している。毎月モニタリングを実施し、職員と話し合いながら現状に即したプランを作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の様子や気づきを記入、申し送りノートを利用して、情報を共有し実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者の状況は変化しやすい、その時々、何を、どんなサービスを必要としているのかを見極め、各機関と連携を図り多機能化に取り組んでいる。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小学生との交流会、中高校生の体験学習、ワークキャンプ受け入れなどにより地域の方と触れ合い、湧水トンネルでの七夕・クリスマスの飾り付けなどで、地域の催しに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族・かかりつけ医が良好な関係が築けるように連絡を密に取り合い、調整している。本年より、定期受診を通院から往診に切り替える。	入居者や家族の希望するかかりつけ医とし、内科は往診をお願いしている。他科を受診する際は職員が支援するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の関係は良好で、介護職から相談・情報は実際に確認し、利用者が安心出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の引き受けが、何時でも出来る様、地域連携室を中心として、情報交換し、協力・信頼関係の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、本人・家族等の意向、考えを聞き、医療機関の協力の下、チーム一丸となって支援できるよう努力している。	入居時に重度化や終末期に向けた方針等を説明し意向を把握している。医師の意見で終末期の判断があった時に家族・職員等で話し合い、訪問看護を利用しながら、希望に沿えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議を利用して、広域消防署に講習を依頼、また、病院などの研修に参加して、報告及び実施訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策として、広域消防署の協力により、毎年防火避難訓練を実施している。また、町役場や地域に協力をお願いしている。	2ユニット合同で毎年消防署立会いの非難訓練を実施している。夜間連絡網を作成し、地域や役場にも協力をお願いしている。緊急時ネットワークで行政とも連携をとり備蓄の保管をしている。	隣接する同法人のグループホームと非常災害時の連携についてを話し合い、より安心できる協力体制づくりを期待します。

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族として対応するため、つい言葉が馴れ馴れしくなってしまうことがあり、職員同士で注意しあったり、職員会議で言葉使いについて取り上げ、利用者を傷つけないよう努力している。	入居者の人格を尊重した言葉かけやプライバシーに配慮した対応を心がけている。気づいたことがある時は注意したり、会議で話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状によっては、訴えることができずに興奮状態になることもある。その人の、思いのままに行動してもらうよう、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の一日の行動を把握して、一人一人のペースに合わせ、日々の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前に立つと、自然と頭や顔に手がいく為、櫛やタオルを置いて、自然と使えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備もできることが、少なくなってきたが、一緒にいるうちに少しずつ手が動いている様子がみられる。出来ることを、少しずつでも増やしていきたい。	入居者の希望を取り入れながら職員が献立をたて食材は注文配達をお願いしている。台ふきや下膳・もやしの根切りなどできる事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や嚥下能力の違いに合わせて提供、また水分補給も、熱中症対応も考慮して、多様に準備する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを、個人個人に定着するように毎回、声掛けしている。 口腔内の状態に応じて、舌磨きをして清潔の保持に努めている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に、一人一人のパターンを把握することで、尿取りパットの使用を減らし、排泄の失敗で心理的なダメージを与えないように、排泄の自立を支援している。	トイレでの排泄を基本に入居者の排泄パターンを把握し時間やしぐさで誘導をしている。ポータブルトイレ・尿とりパットや紙パンツを使い分け自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年齢を重ねるごとに、下剤に頼わざるを得ない状況にある中で、適度な運動と食べ物、水分摂取などで便秘の予防を行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル、身体状況などから、入浴の可否を判断、個々の好みの時間、その時の気分など状況を尊重しながら、入浴を楽しんで頂くよう支援している。	だいたいの入浴日は決まっているが、希望に応じてゆっくり楽しんで入浴できるよう柔軟な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動や楽しみごとで、メリハリのある生活でのんびりと休息し、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の、薬情報を共有し、健康面での変化や疑問・気づきなど職員間で協議し、個人の主治医と蜜に連絡を取りながら、服薬支援に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最近では、やれる方が少なくなっているが、少しでもやれることがあれば、毎日の日課として、声掛けしている。(タオルたたみ・洗濯物たたみ・食事前後のテーブル拭き・食事後の食器片付けなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の感覚や戸外の空気に触れて気分転換してもらえるよう努力しているが、なかなか行けないのが現状である。また、移動の不自由により、車窓からの見物になりつつある。	少しずつレベルが低下して外出も難しくなってきたが、バスハイクを企画し車窓からでもコスモスや紅葉等、季節を感じる見学には出かけるようにしている。ぶどう狩りは実際に体験し、食してみるなど楽しい経験もしている。	

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に誘っても、なかなか行こうとされないが、たまに、行きたいと要求がある時は、本人にお金を渡して、同行し買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物がきた後、電話や礼状で返信の支援をしている。 毎日の、リハビリの仕上げとして、年賀状や暑中見舞いなどにも、少しずつ取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に、季節ごとに飾りつけしたり、西側には朝顔を植えグリーンカーテンにしている。 外出が、徐々に出来なくなっている為、家の中から、季節を感じて頂いている。	リビング等に季節を感じる制作物を飾っている。和室コーナーにはソファ等を設置し、テレビを見たり、新聞を読んだり思い思いに過ごせるようにしている。ホーム内は床暖房の設置で快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で、テレビや談話を楽しまれたり、新聞を読まれたりと、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたお気に入りの物や、伴侶の遺影、位碑を飾ったり、家族に囲まれた写真を飾ったり、様々なもので居心地良く過ごせるような工夫をしている。	テレビやソファ、位牌等を持ち込み、また家族の写真を飾ったりして一人ひとりにあった居室づくりをしている。室温などにも配慮し心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示や、手すりなどを活用し、個々の能力に応じた自立に向けての安全で快適な生活を送れるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132番地1		
自己評価作成日	評価結果市町村報告日	平成25年11月25日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

私たちは、次の事を大切に日々送っています。  
 穏やかな老後を過ごすために、利用者に寄り添い、ゆっくりした個々のペースに合わせ、個人を尊重した支援介護を目指しています。  
 毎日の適度な運動、食事、睡眠をとることによって、ADLの低下を緩和し、快適な生活を送っていただくことを重要視しています。  
 四季折々の季節を感じることで暮らしに変化や刺激をもたらし、日々の生活を楽しく頂けるよう季節の野菜や花を育て、ホーム内には飾り付けを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成25年10月20日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個人を尊重、そのために、選択の機会と自由を提供する。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症対応型介護施設として、地域に認知されてきた。福祉体験学習として、地域の中高生の受け入れや、湧水トンネルの七夕・クリスマスの参加など、四季折々の行事を通して、地域に関わりをもってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の、職場体験学習・福祉体験学習などを通じ認知症への理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議が定着し、事業者の取り組みを報告。各方面からの意見、評価に対し現在のサービスについて、反省し話し合い、今後のサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の住民福祉課や社協等の福祉関係との連携は共に良好で、協力関係も出来ている。また、緊急時対応ネットワークのメンバーとして、緊急対応品備蓄の協力を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の理念である、「個人の尊重と保護」の精神で、全体会議を通じて、全員が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修等で、具体的な高齢者虐待の内容を把握することで、職員一人ひとりが注意し、虐待防止に努めている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉制度については、今後少しづつ取り入れていかなければならない課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約については、運営者自らが、文書の掲示・説明を行い、利用者や家族が十分に納得した上で、契約・解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の不安や不満、要望、意見等は、拜聴後早急に話し合い、検討し代表者自らが回答説明を行い、結果を全職員に報告、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全員参加型の職員会議において、職員一人一人が、意見・要望・気づき等を発表する場を設けている。検討した内容は、施設長、ホーム長で話し合い改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の悩みなど、個別に話す機会を設け代表者は、精神的・身体的状況を把握し、各自が向上心をもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上を目指し、個人に合わせた育成を行っています。定期的に、社外の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、講習会には運営者、管理者、職員とテーマに合わせて参加、内容を職員会議や回覧等で全員に徹底、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設になるべく早く馴染まれるように全職員が、積極的に声掛けを行い、居心地のよい環境を提供できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時は、家族の悩み、不安な気持ちを聞き入れ、何でも相談ができる、安心して預けられる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が、今何を求めているのか、家族と本人からだけではなく、職員自身の目で見極め、その人らしいサービスが選択できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「世話になってすまんー」「世話にならんように自分なりに頑張りよる」・いろいろな意味が込められている言葉がある中で、家族として関わり、接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況の説明を、来苑時や電話で報告し今の状態を、家族が知ること、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、生活してきた環境での年中行事等、分かる限り伝えるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・相性・なじみの関係などを知った上で、触れ合えるような雰囲気作りを行っている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時に、理由しだいでは、元気になるれば戻れるという安心感、苑外で会えば、気軽に声掛けて、相談や支援ができるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の望む暮らしに、出来るだけ近づけるよう、関わりを増やし、不満や希望が聞けるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の全体像を把握する為、職歴、生活歴、人間関係等細かな情報を、本人・家族から拝聴する。その後の、サービス提供に役立てていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で、小さな気づきを大事にして、情報を事業所全体で共有して、日々のケアに役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、安心して快適な生活が維持できるよう、本人・家族・医療機関と話し合い、助言等を受けながら、介護計画を作成、月1回モニタリングで話し合い、評価し新たな介護計画に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の様子や気づきを記入、申し送りノートを利用して、情報を共有し実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者の状況は変化しやすい、その時々、何を、どんなサービスを必要としているのかを見極め、各機関と連携を図り多機能化に取り組んでいる。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小学生との交流会、中高校生の体験学習、ワークキャンプ受け入れなどにより地域の方と触れ合い、湧水トンネルでの七夕・クリスマスの飾り付けなどで、地域の催しに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族・かかりつけ医が良好な関係が築けるように連絡を密に取り合い、調整している。本年より、定期受診を通院から往診に切り替える。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の関係は良好で、介護職から相談・情報は実際に確認し、利用者が安心出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の引き受けが、何時でも出来る様、地域連携室を中心として、情報交換し、協力・信頼関係の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、本人・家族等の意向、考えを聞き、医療機関の協力の下、チーム一丸となって支援できるよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議を利用して、広域消防署に講習を依頼、また、病院などの研修に参加して、報告及び実施訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策として、広域消防署の協力により、毎年防火避難訓練を実施している。また、町役場や地域に協力をお願いしている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族として対応するため、つい言葉が馴れ馴れしくなってしまうことがあり、職員同士で注意しあったり、職員会議で言葉使いについて取り上げ、利用者を傷つけないよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状によっては、訴えることができずに興奮状態になることもある。その人の、思いのままに行動してもらうよう、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の一日の行動を把握して、一人一人のペースに合わせ、日々の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前に立つと、自然と頭や顔に手がいく為、櫛やタオルを置いて、自然と使えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備もできることが、少なくなってきたが、一緒にいるうちに少しずつ手が動いている様子がみられる。出来ることを、少しずつでも増やしていきたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や嚥下能力の違いに合わせて提供、また水分補給も、熱中症対応も考慮して、多様に準備する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを、個人個人に定着するように毎回、声掛けしている。 口腔内の状態に応じて、舌磨きをして清潔の保持に努めている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に、一人一人のパターンを把握することで、尿取りパットの使用を減らし、排泄の失敗で心理的なダメージを与えないように、排泄の自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年齢を重ねるごとに、下剤に頼わざるを得ない状況にある中で、適度な運動と食べ物、水分摂取などで便秘の予防を行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル、身体状況などから、入浴の可否を判断、個々の好みの時間、その時の気分など状況を尊重しながら、入浴を楽しんで頂くよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動や楽しみごとで、メリハリのある生活でのんびりと休息し、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の、薬情報を共有し、健康面での変化や疑問・気づきなど職員間で協議し、個人の主治医と蜜に連絡を取りながら、服薬支援に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最近では、やれる方が少なくなっているが、少しでもやれることがあれば、毎日の日課として、声掛けしている。(タオルたたみ・洗濯物たたみ・食事前後のテーブル拭き・食事後の食器片付けなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の感覚や戸外の空気に触れて気分転換してもらえるよう努力しているが、なかなか行けないのが現状である。また、移動の不自由により、車窓からの見物になりつつある。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に誘っても、なかなか行こうとされないが、たまに、行きたいと要求がある時は、本人にお金を渡して、同行し買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物がきた後、電話や礼状で返信の支援をしている。 毎日の、リハビリの仕上げとして、年賀状や暑中見舞いなどにも、少しずつ取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に、季節ごとに飾りつけしたり、西側には朝顔を植えグリーン・カーテンにしている。 外出が、徐々に出来なくなっている為、家の中から、季節を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で、テレビや談話を楽しまれたり、新聞を読まれたりと、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたお気に入りの物や、伴侶の遺影、位碑を飾ったり、家族に囲まれた写真を飾ったり、様々なもので居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示や、手すりなどを活用し、個々の能力に応じた自立に向けての安全で快適な生活を送れるよう工夫している。		

## 目標達成計画

作成日：平成 25年12月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	隣接のグループホームとの災害時などの避難の連携についてマニュアル化が出来ていない。	マニュアルの整備と、それに関する訓練の定期的な実施。	各部署で集まりマニュアルの作成、訓練の実施(半年に一回)	12ヶ月
2	1	理念の周知が徹底されていない為、それにもとずいた介護ができていない。	全職員が理念を周知し、それにもとずいた介護が出来るようになる。	理念を掲示する。1回のモニタリング時に唱和し理念に関しての振り返りを行う。	12ヶ月
3	36	場面によっては入居者を尊重した言葉使いが出来ていない。	どのような場面でも入居者を尊重した言葉使いが出来るようになる。	職員同士で言葉使いに対する指摘・指導を行う。	6ヶ月
4	26	介護計画作成後の家族への説明と確認のサインが書かれていない。	介護計画作成の都度、家族への説明と確認のサインを貰う。	介護計画作成後、家族へ連絡し説明会の日程を調整する。	6ヶ月
5	11	月1回の職員会議で会議録など書類での保管がなされていない。	会議録を残し職員がいつでも情報共有できるようにする。	既存の申し送りノートに会議録(日時・出席者)を記載する。	2ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。